

2016年度第2四半期決算説明会  
主な質疑応答

● 全社

Q：今回の通期業績予想で、前回予想値に対する事業利益の下方修正額120億円の中で、為替影響による下方修正分の約100億円を除いた残りの約20億円について、その内訳を教えてください。

A：業績予想の修正に対応した全社的な固定費の削減として、約20億円のプラス影響を見込んでいるので、為替を除いた事業の下方修正分は約40億円。その要因は、以下4点であり、影響額は、それぞれ同程度。

- ① 海運会社の経営破たんに伴う輸送費用の増加
- ② 中国における税制改定に伴うSIDM新規需要が、政府の導入方針変更により減少
- ③ 小切手スキャナーの一時的顧客対応費用の発生
- ④ ウェアラブル・産業プロダクツセグメントでの需要予想修正

Q：海上輸送などで輸送費用が増加とあるが、現在の対応状況と、今後の見通しを教えてください。

A：海上輸送が停滞したことで、クリスマス商戦に向けて、一部商品の航空輸送を実施している。また、海上輸送運賃も上昇しており、これらにより輸送費用の増加を予想している。ただし、足元では改善に向かっていることから、影響は一時的なものと予想している。

● プリンティングソリューションズ

Q：大容量インクタンクモデルの地域別の販売状況を教えてください。

A：エマージング地域においては、インド・インドネシア・中国など、アジアのほとんどの国で販売好調。経済状況を懸念していた南米も、良い状況となっている。  
先進国では、大容量インクタンクモデル全体に占める割合は高くはないものの、当初の予想以上に売上は拡大している。

Q：オフィス向けインクジェットプリンターの販売拡大の状況を教えてください。

A：従来からご説明している通り、着実に拡大している。

課金型のオフィス向けインクジェットプリンターは、2年前に市場投入した時点で期待した売上規模に届いてはいないが、この間に、さまざまな知見を蓄積することができた。

さらなる売上拡大には、現在の商品ラインアップだけではなく、さらに高速印刷が可能な商品の充実が不可欠だと考えている。

現在、ラインヘッド搭載プリンターの開発を進めており、今年度からスタートしている3ヶ年計画である第1期中期経営計画の中で早期に投入するという計画に沿って順調に進んできている。

Q：インクジェットプリンターの為替影響を除くインク売上収益は、これまでの数四半期は着実な成長が継続していたが、第2四半期は前年同期並みということは、変調があったということなのか。

A：第2四半期のインク売上収益は、為替影響を除くと前年同期並み。先進国のインク売上収益は若干減少しているが、これは欧州で前年同期に新インクへの切り替えを行ったことによる押し上げ効果などによるもので、一時的なものと考えている。着実な増加トレンドは継続していると考えている。

Q：プロフェッショナルプリンティングの年間売上収益は、為替影響を除くと前年に対し成長しているのか。

A：既存分野では、フォト・グラフィックスにおける厳しい競争環境の継続や、昨年に好調だった POS プリンターにおける調整を織込んだが、成長分野であるサイネージ、テキスタイル、ラベルなどで販売が拡大することで、為替影響を除いた売上収益は、前年に対して着実な成長を予想している。

● ウェアラブル・産業プロダクツ

Q：ロボティクスソリューションズで予想を修正したが、背景を教えてください。

A：期初予想には、スマートフォン関連用途向けに一定程度の需要を見込んでいたが、想定通りの需要が発生しなかった。新規案件が進行中ではあるが、計画は慎重な見方をしている。シェアを失っていることは無いと考えているので、引き続き、中期的な市場拡大の機をとらえ、着実に受注を獲得していく。

Q：ファンドリービジネスは市況が良いと考えているが、足元での半導体の稼働率を教えてください。

A：稼働率は、どの工程を指すのかで数値が変動するので、一律の定義は難しいが、フル稼働に近い状況。

以上